

授業科目	障がい者福祉特講 Welfare for the Disabled Persons			担当教員	ヴィラーク ヴィクトル		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>「障がい」をキーワードに、多様な生活課題を抱える人びとの人権尊重の視点に沿ったソーシャルワーク理論の修得を目指す。自己及びウェルビーイング実現に向けての支援及び社会デザイン力の向上を図るために、「障がい」を社会・文化的に捉え、前期は disablism (障がい者差別主義と健常者中心主義) に対抗する反差別的な実践アプローチの基本原則を中心に学ぶ。</p> <p>なお、社会福祉の高度な専門的な知識、技術の修得を促すために、外書講読の学修法を中心とし、英語で専門的な文書を読む力を高める。その中で、世界、とりわけイギリスの障がい者福祉に対する理解を深める。</p>							
観点	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
関心・意欲 ・態度	障がい者の人権尊重の専門的な価値と倫理を応用できる。				ディスカッション	10%	
	定期的な学修で高度な専門力を目指す意欲と姿勢を維持できる。				取り組み	20%	
思考・判断	「障がい」について社会・文化的なモデルで把握できる。				課題レポート	10%	
技能・表現	「障がい」に関する理論に基づいた実践原則を応用できる。				課題レポート	10%	
	「障がい」について構造的な働きかけを考案できる。				課題レポート	10%	
知識・理解	「障がい」に関するソーシャルワーク理論を修得できる。				ディスカッション	10%	
	「障がい」に関する専門的な英文章を理解できる。				輪読報告	30%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
<p>「取り組み」(20%)は文献講読などの定期的な宿題と積極的な授業参加、「輪読報告」(30%)は分担する文献の発表、「ディスカッション」(20%)は授業内の発言内容と貢献度、「課題レポート」(30%)は自由に選んだ大衆作品を基に『メディアにおける障がい者像』に関するディスコース(言説)分析の調査研究報告を評価対象とする。</p>							
授業の概要							
<p>授業の展開は英語文献の輪読を主要な手法とする。国際ソーシャルワーカー連盟(IFSW)の障がい者に係る指針声明文を確認してから、反差別的な実践に関するイギリスの専門書を基に、「障がい」に対する偏見や差別という構造的な要因から生じる社会的な障壁と、それらに起因する抑圧状態に挑戦するソーシャルワークについて取り上げる。</p> <p>扱うテーマは、障がい者を取り巻くグローバル実態、「障がい」の捉え方、国際人権体系、各種分野別の国際動向、ソーシャルワーカーの役割、disablismの考え方及びそのソーシャルワークへの影響、当事者運動、重複的な抑圧、反差別的な実践原則を含む。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書: Thompson, N. (2006) <i>Anti-Discriminatory Practice (4th ed.)</i>, Palgrave Macmillan.</p> <p>参考書: IFSW (2012) <i>Policy on People with Disability</i>, International Federation of Social Workers.</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>各自の準備不足は授業進行とディスカッション、即ち受講生相互の学修を妨げる要因になりやすい。それを避けるために、指定文献は発表を担当する以外にも毎回必ず読んで、知らない単語を辞書で調べて参加すること。原則、欠席、遅刻、退室、早退などを認めない。学修や参加について困難を感じる場合、個別に事前相談を受ける。</p> <p>メディアなどの社会における「障がい」の語られ方や障がい者が置かれている社会的な地位に対する感受性を持ち、授業と関連付けて、時事問題や日常生活の出来事にアンテナを張ること。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	問題関心を共有し、進め方を調整・決定する。	予：履修動機の整理 復：シラバスの熟読
2	グローバル実態	障がい者を取り巻く世界的な動向を把握する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：学んだ専門用語の暗記と新しい理論的な概念の整理
3	「障がい」の定義と人権	社会モデルを中心に「障がい」の捉え方と関連人権体系について整理する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：主要な人権文書の検索
4	国際人権文書	権利条約をはじめとして、国連の取り組みの詳細を理解する。	予：主要な人権文書の内容確認 復：国内の関連法体系の調査
5	分野別の国際動向	「障がい」と貧困、教育、雇用などの関係について考える。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の分野別実態の調査
6	ソーシャルワーカーの役割	国際ソーシャルワーカー連盟が「障がい」について示す専門職の立場を確認する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の専門職団体の立場の調査
7	Disablism の考え方①	障がい者差別主義と健常者中心主義の概念と社会的な影響について学ぶ。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：学んだ専門用語の暗記と新しい理論的な概念の整理
8	Disablism の考え方②	障がい者差別主義と健常者中心主義の構造的な要因と仕組みについて理解する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：学んだ専門用語の暗記と新しい理論的な概念の整理
9	ソーシャルワークへの影響①	Disablism がソーシャルワーク与える悪影響と負の遺産について考える。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内のDisablismの影響の検討
10	ソーシャルワークへの影響②	Disablism とソーシャルワークと関係について再考する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：課題レポートのテーマ設定
11	当事者運動	イギリスを中心に障がい者運動の意義について検討する。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の当事者運動の調査
12	重複的な抑圧	「障がい」と他の多様性要素を基にした差別の影響について理解を深める。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：国内の現状の検討
13	反差別的な実践原則	「障がい」について反差別的なソーシャルワーク対応を考える。	予：英文献の講読と辞書の参照 復：自身の実践との照合
14	課題レポート①	障がい者像に関するメディア分析の調査研究について発表する。	予：課題レポートの作成 復：全体のふりかえりと疑問点の整理
15	課題レポート②	障がい者像に関するメディア分析の調査研究について発表する。	予：課題レポートの作成 復：全体のふりかえりと疑問点の整理